

NT-1 グリーン電力証書システムの生立ちと展望

13:10 民間から始めた再生可能エネルギーの活用施策

KES代表
桑原 康浩

【セッション概要】 風力や太陽光等の再生可能エネルギーで発電した電気を利用するには諸課題が立ちはだかっていた。そこで、物理的な電気の価値とCO₂を排出しないという環境貢献の価値に分割して評価する仕組みを1999年に提唱し、2001年から環境貢献の付加価値を証書化しグリーン電力証書として流通させる仕組みを構築した。現在では地球温暖化防止施策として脚光を浴び、証書発行量は2001年度の230万キロワット時から、2008年度は約2億4千万キロワット時と100倍に拡大している。その概要と展望を紹介する。

【講演者略歴】 1990年ソニー株式会社入社、工場建設・省エネ施策の導入等に従事。再生可能エネルギー活用等を含めたエネルギーソリューション組織の必要性を提唱し、2007年エネルギーソリューション室長兼担当部長に就任。2008年10月に退社、KESを設立する。博士(工学)。

MS-1 変化の時代のR&D手法 オープンイノベーション

13:10 「自前主義」の壁を破り研究開発効率を向上する

リアルコム株式会社 コンサルティンググループ
プリンシパルコンサルタント 林 宏典 

【セッション概要】 現在、「市場の変化に遅れず」「イノベーションを生み出すコア技術を育成する」ことは、企業の研究開発リーダー・CTOの大きな課題である。この課題を解決する手法として現在注目されているのが、“組織内と組織外のアイデアを有機的に結合させ、価値を創造する”アプローチの「オープンイノベーション」である。本講演では、P&G及び3Mといった先進企業の取り組みを紹介するとともに、自らの取り組みレベルを把握する上で有用な、診断フレームワークについてもご紹介する。

【講演者略歴】 ジョージワシントン大学 プロジェクトマネジメント学科修了。総研系コンサルティング会社を経てリアルコムに参画。研究開発、ソフトウェア開発などプロジェクト型業務でのナレッジマネジメントに強み。PMP®、PMS。

FI-1 金融分野におけるITプロジェクトマネジメント

13:10

SBIネットシステムズ株式会社
代表取締役社長 内山 昌秋

【セッション概要】 本年1月に「株券の電子化」が実施の運びとなったが、一連のペーパーレス化を実現したわが国証券決済制度改革は、業界横断的な性格を持つものであり、発行体、投資者から、証券会社、銀行、信託銀行などの市場参加者や、証券決済インフラ提供者(証券取引所、清算機関、証券保管振替機構など)、および当局などが広く関係する数年来のナショナル・プロジェクトである。かかるプロジェクトに、直接、間接に参加した経験を踏まえ、金融分野におけるITプロジェクトマネジメントの現状と課題について論ずる。

【講演者略歴】 1986年日興證券株式会社入社。1999年アンダーセンコンサルティング入社。2000年トレードウィン株式会社代表取締役。2006年岡三オンライン証券株式会社取締役。2008年SBIネットシステムズ株式会社代表取締役(現任)。2009年SBIトレードウィンテック株式会社代表取締役(現任)。

NT-2 プロジェクトを成功に導くホールシステム・アプローチ

14:15 「決めない会議」の勧め

マインドエコー
代表 香取 一昭

【セッション概要】 プロジェクトをとりまく環境が複雑さを増す中で、スピードや効率を重視するこれまでの方法だけでは成果が得にくくなってきた。プロジェクトを成功に導くためには、メンバーや関係者のコミュニケーションと関係の質を高める必要があり、そのためホールシステム・アプローチへの関心が高まりつつある。このセッションでは、ホールシステム・アプローチの基本的考え方を解説するとともに、その具体的手法としてのワールドカフェ、OST、AI、フューチャーサーチについても紹介する。

【講演者略歴】 組織活性化コンサルタント。マインドエコー代表。1943年千葉県生まれ。学習する組織の考え方による組織変革プロジェクトを推進し、ホールシステム・アプローチの普及活動を展開している。著訳書に「決めない会議」「ワールドカフェ」「フューチャーサーチ」など。

MS-2 事業イノベーションの連鎖で世界をリードする製造業へ

14:15 顧客・商品・サービス、バリューチェーン、ガバナンスの4軸事業モデル提案

パナソニックラーニングシステムズ株式会社
顧問 北村 保成

【セッション概要】 21世紀初頭からの経営改革、その途上における世界同時不況に直面している日本の製造業に対してアンケート調査を実施。外部環境と組織実力に適合した「今」と「次」の事業モデルを構想し、顧客・商品(サービス)・バリューチェーン・ガバナンスの4軸視点から事業モデルにイノベーション要素を付加してグローバルに通用するモデル構造に仕上げるプロセスを提起したものである。特に組織能力に立脚した模倣が困難な事業モデルをプログラムマネジメント手法で構築する試みに注目頂きたい。

【講演者略歴】 1972年 松下電器産業株式会社入社。本社とビデオ部門で人事を担当、山形工場工場長と事業企画や営業部長を歴任後、松下情報システムテクノロジー初代社長、システム事業部門の人材開発センター所長、パナソニックラーニングシステムズ株式会社社長を経て、2008年から現職。

FI-2 金融機関におけるシステム外部委託の現状と課題

14:15

日本銀行金融機構局
企画役 江見 明弘

【セッション概要】 金融機関のシステム開発・運用業務では、外部委託が広く行われてきたが、近年、依存度はますます高まり、委託形態も多様化しつつある。日本銀行では、システムの委託先管理を重点調査対象とし、金融機関の対応状況を確認してきたが、重要システムにおいても、委託先管理が十分でない事例が少なくない。先般、こうした問題意識から、アンケート調査を実施し、「金融機関におけるシステム外部委託の現状について」を対外公表した。本講演では、当ペーパーをベースに外部委託の現状と課題を解説する。

【講演者略歴】 84年大阪大学法学部卒、同年日本銀行入行。爾来大半をIT関連部署に所属し、日銀ネット等、各種システムの開発に従事。03年より現職。金融機関のシステムリスクに関する査考等の企画・実施を担当しているほか、システムリスク管理に係る各種調査論文を公表。

NT-3 公的資金による研究開発プロジェクトのマネジメントと知見の蓄積

15:35

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
企画調整部 主任 奥谷 英司

【セッション概要】 NEDO技術開発機構は、産業技術及び新エネルギー・省エネルギー関連の分野で多くの研究開発プロジェクトを実施してきた。プロジェクトでは、最大の成果を得るための効率的・効果的なマネジメントが求められており、プロジェクトの目的や性質に応じて産学官から最適な体制を構築し、様々な運営・評価手法を駆使しながら実施していくことが求められる。ここでは、プロジェクトを成功に導くためのマネジメント手法と、それらを継続的に蓄積し、組織全体の能力向上を図るための基本ツールを紹介する。

【講演者略歴】 2003年NEDO技術開発機構入構。技術評価部(当時)、ナノテクノロジー・材料技術開発部。2007年より東北大学に1年間勤務した後、2008年6月より企画調整部にて開発関連部門の業務の総合調整等を担当。博士(工学)。

MS-3 国際協働ものづくりプロデューサの育成

15:35 日本本社と各現地法人を結び協働業務プロセス

青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング(株) 代表取締役
青山学院大学 経営学部 教授 玉木 欽也

【セッション概要】 国際協働ものづくりプロデューサ育成プログラムは、海外展開済み、海外展開計画中、また海外から社員の受け入れを考えている企業に対して、マネージャおよび経営者の国際化に向けた国際的な協働ビジネスリーダーの育成を目指しています。本プログラム内容は主に次の4つです。①国際経営の協働業務プロセスの標準化とビジネスコミュニケーションのフォーマット化、②事業ライフサイクルイノベーションと国際組織改革、③現地法人の運営課題の抽出・分析・課題解決、④ダイバーシティカルチャ・マネジメント。

【講演者略歴】 青山学院大学経営学部教授、社会情報学研究科教授。「青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社」代表取締役社長。主な研究テーマ:事業創造戦略、製品戦略、国際生産戦略、ICT活用教育による人材開発。

FI-3 今、ミッションクリティカル・システムの再考

15:35 金融などミッションクリティカルなシステム開発の障害事例紹介

株式会社クロスリンク・コンサルティング
代表取締役社長 拜原 正人

【セッション概要】 金融あるいは交通機関はもとより、一見ミッションクリティカルとは思われないシステムの異常がネットワーク等を介して広域システム異常に。また、システムの操作・運用誤り、地震・台風等の人災・天災によるシステム停止が、社会生活に多大な影響を及ぼしている。本講演では、ミッションクリティカルな結果をもたらした典型的なシステム障害事例を取り上げて、①障害発生事象とその原因分析、②障害事象のモデル化と防止策、③プロジェクトマネジメントへの防止策組み込み等について紹介する。

【講演者略歴】 1970年NTT入社。大規模システムDIPS開発と100を超えるPMを担当。2003年、危機プロジェクトの再建を請う、クロスリンク・コンサルティング社を設立、代表取締役就任。プロジェクト現場におけるPM危機回避のクライシス/リスクマネジメント、高度PM人材育成等を提供。

NT-4 不確実性のマネジメントによるプロジェクト組織の学習能力の向上

16:40 不確実な時代にプロジェクトを実施する組織にとって必要な能力を如何に向上させるか

株式会社ニルソフトウェア
取締役 河合 一夫 

【セッション概要】 昨今の社会状況は、不確実さを増し、混沌の度合いを増している。プロジェクトのゴールは、市場や技術の変化に伴い変更を余儀なくされる。不確実性を如何にマネジメントするかが、プロジェクトの成否を左右する。不確実性下で如何に意思決定するかが重要であり、過去の経験や従来の知識にとらわれない意思決定をする組織構築がプロジェクトの実施に必要となる。本講演では、不確実な状況下において変化する目標に対応可能な組織能力の向上をプロジェクトを実施する中で構築する方法について述べる。

【講演者略歴】 株式会社ニルソフトウェア、シニアコンサルタント、PMP®。航空宇宙関連のソフトウェア開発を経た後、さまざまな業種のソフトウェア開発プロジェクトマネジメントを支援。また、PMツールの開発を行い、現在に至る。PMAJ、IEEE、PMI®、PM学会、電子情報通信学会等所属。

MS-4 『ヤマハ・デザイン』のマネジメント

16:40 グローバルに存在価値のあるアイデンティティ構築の為に

ヤマハ株式会社 デザイン研究所
所長 川田 学

【セッション概要】 世界市場にあって、自社ブランドのデザイン・アイデンティティ強化を目標に掲げつつも、日本の会社組織に組み込まれたインハウス・デザイン部門は、とすると高度に専門化された事業領域や特殊環境の中で、創造性や視野までも狭く限定していないだろうか? そもそもアイデンティティとは、外部の開かれた視野から認められることではじめて、真に価値のある独自の一貫性として信頼を勝ち得る筈だ。そんな問題意識を強く持つヤマハデザイン研究所の、アイデンティティを鍛える活動を紹介したい。

【講演者略歴】 1992年千葉大学工学部工業意匠学科卒業。ヤマハ(株)にて様々な楽器、オーディオ、音楽制作ソフトのGUI等を担当。2001年RCA(英国王立美術大学院)留学、MA修得後復職。電子楽器グループ統括、プロダクトデザインセンター長を経て、2008年6月よりデザイン研究所 所長。

